

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

高機【ITF-3】

調査年月日 : 1998年9月20日
調査地 : カーシャーン (Kashan) 市
民族名 : ペルシア (Persia)

型式 : 高機 (空引き機)
材質 : 木
概寸 : 全長381cm, 全幅221cm, 全高272cm
経糸保持方式 : 垂下式
整経方式 : 平整経式
開口具設置方式 : 綜統可動式

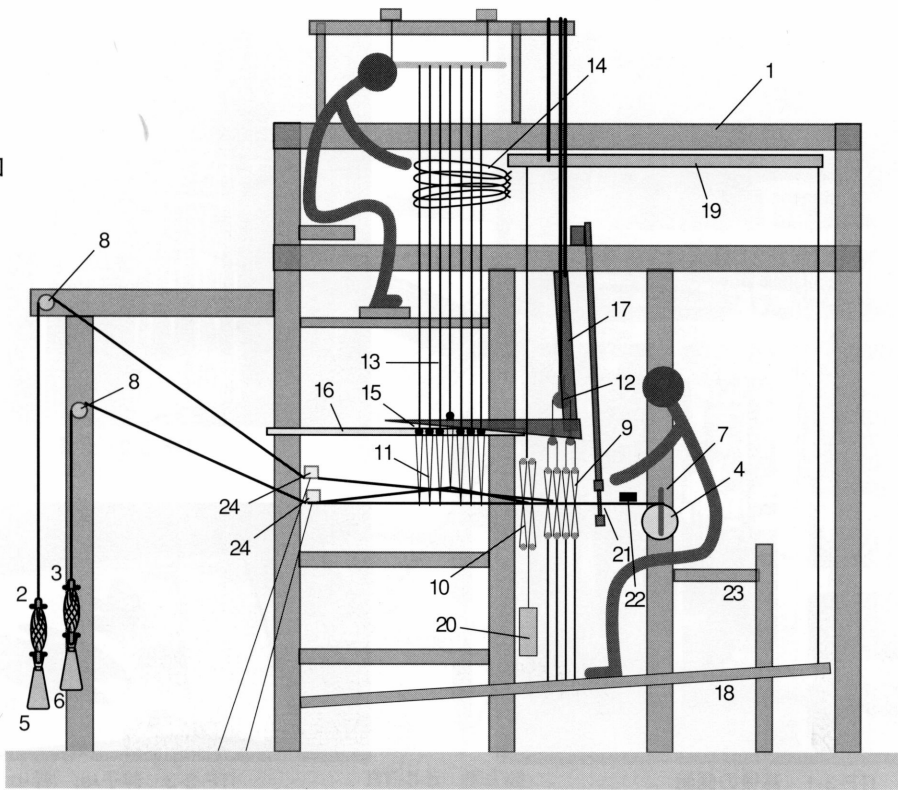


構成部品

機台 : <図ITF-3-a-1>
経糸保持具 : 経巻き棒 1 <図ITF-3-a-2>
経巻き棒 2 <図ITF-3-a-3>
布巻き棒<図ITF-3-a-4>
経糸間接保持具 : 錘り 1 <図ITF-3-a-5>
錘り 2 <図ITF-3-a-6>
布巻き制御棒<図ITF-3-a-7>
滑車<図ITF-3-a-8>
開口具 : 番目綜統 (4 枚) (地綜統)
<図ITF-3-a-9>
番目綜統 (2 枚)

開口補助具 : 滑車<図ITF-3-a-12>
通糸<図ITF-3-a-13>
通糸仕分け紐<図ITF-3-a-14>
通糸綜統連繫紐 (ナイロンてぐす 60本) <図ITF-3-a-15>
通糸綜統連繫紐保持棒 <図ITF-3-a-16>
紋開口部拡大用くさび <図ITF-3-a-17>
踏み木<図ITF-3-a-18>
天秤棒<図ITF-3-a-19>
錘り3<図ITF-3-a-20>

ITF-3-a 構造図



- 緯入具 : 杼<写真ITF-3-3-b>
 緯打具 : 箴<図ITF-3-a-21>
 幅出し具 : 伸子<図ITF-3-a-22>
 <写真ITF-3-3-a>
 その他 : 座板<図ITF-3-a-23>
 経糸押さえ棒<図ITF-3-a-24>
 鏡<写真ITF-3-a-7>

製織中の織物

- 織技法 : 緯錦織（プロケード）
 地組織 : 綾織組織
 素材 : 絹
 用途 : 織見本
 経糸全長 : 2000cm以上
 織幅 : 61cm

織り手 : 男性 2 人

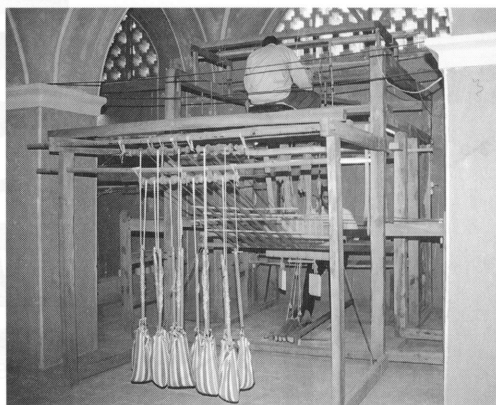
調査メモ

この機は、織り手のほかに引き手が機の上部に位置するという、わが国で一般に「空引き機」として知られる高機と同種の紋織専用的高機である。これは、カーシャーン伝統工芸センター（Markaze Honarhaye Sonnat, Kashan）の半地下の展示室に、設置されていたもので、この高機では、綾地紋組織の緯錦織の実演がおこなわれていた。機織り作業には、織

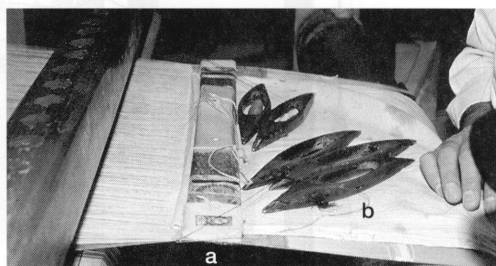
り手1人と、紋綜統に繋がっている通糸の束を仕分けている紐を手繰って、通糸を引き上げる引き手1人がたずさわっている。織り手は布巻き棒の手前、引き手は櫓状に組まれた高機の上部で、それぞれ座板に腰掛けて作業をおこなっていた。模様となる綾紋の浮き組織は3/1の綾で構成されていた。経糸の保持方式は垂下式で、経糸は10本の経巻き棒に分けて巻き取られており、それぞれの経巻き棒の先には、砂の入った袋が錘りとして吊るされている。開口具としては、足踏み式の開口がおこなわれる地組織用の番目綜統と、紋組織用の通糸綜統が60本ある。1本ごとの通糸綜統は、模様に応じて必要となる複数本の輪状の綜統糸が通糸綜統連繋紐によってひとまとめにされ、1本の通糸に繋がれている。60本の通糸は、高機上部でループ状の仕分け紐によって仕分けられている。引き手は、織り手の開口操作に合わせて、60本の通糸綜統に対応する仕分け紐を順番に手繰って、必要な通糸を選び出し、通糸を握って引き上げる。さらに、こうした引き手の作業に呼応して、織り手は、通糸に連動して引き上げられた通糸綜統連繋紐（ナイロンでぐす）のあいだに、紋開口部拡大用くさびを差し込んで、紋織りに必要となる経糸の開口をおこなっている。そして、その後に、緯糸を通し、箴による緯糸の打ち込みが続くこととなる。なお、この機織り作業では、裏地が表にあらわれているため、織り手は時折り鏡を使って、裏に



ITF-3-1 高機の側面



ITF-3-2 全景



ITF-3-3 伸子-a, 杼-b

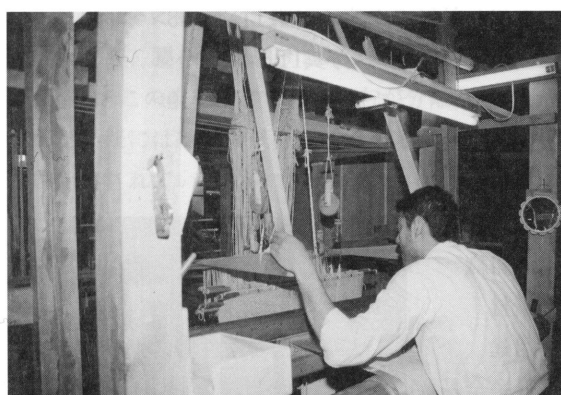
あらわれている表地の織り具合を確認していた。



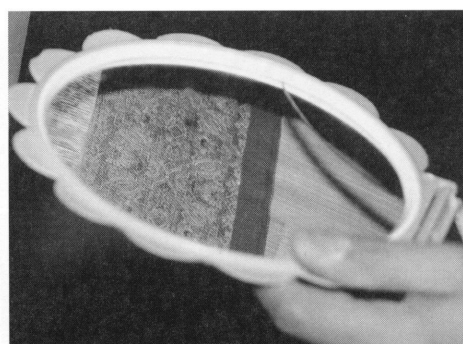
ITF-3-4 引き手



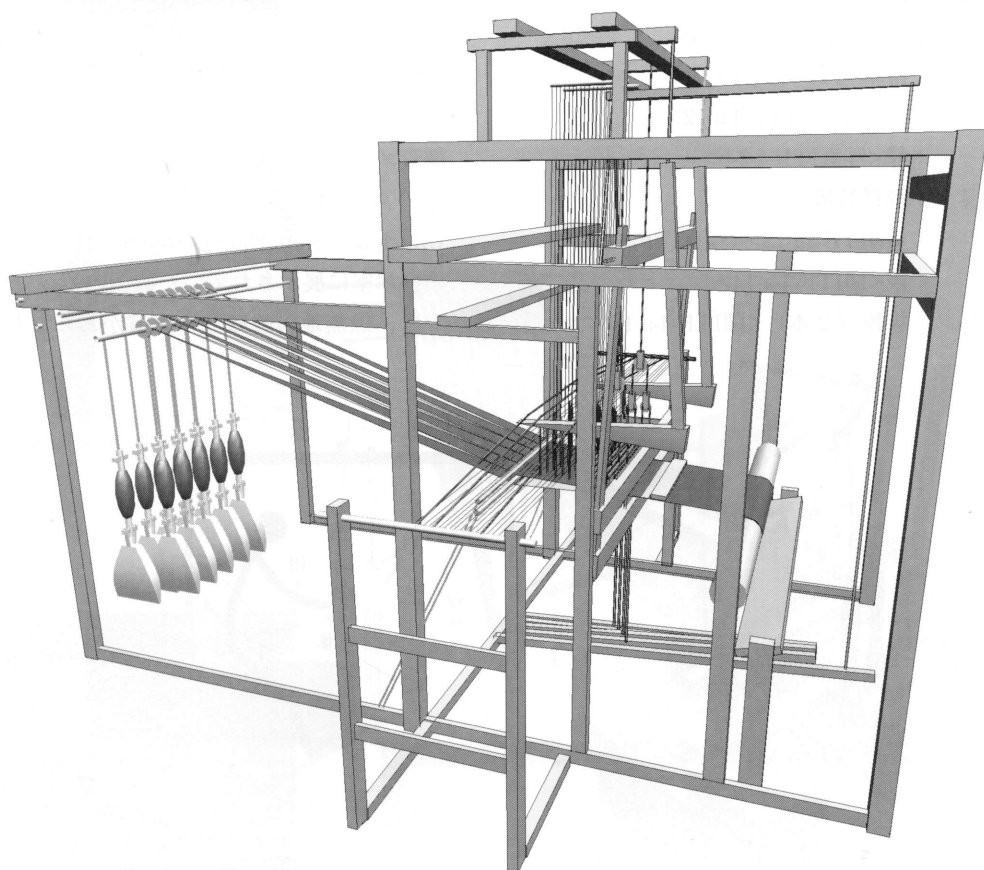
ITF-3-6 通糸仕分け紐



ITF-3-5 紋開口部拡大用くさびの操作



ITF-3-7 鏡に映された織物の表地



ITF-3-b 模式図

高機【ITF-4】

調査年月日 : 1998年9月19-20日
 調査地 : カーシャーン (Kashan) 市
 民族名 : ペルシア (Persia)

型式 : 高機
 材質 : 木
 概寸 : 全長440cm, 全幅278cm, 機枠
 全高186cm

経糸保持方式 : 垂下式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 綜統可動式

構成部品

機台 : <図ITF-4-a-1>
 経糸保持具 : 経巻き棒 1 <図ITF-4-a-2>
 経巻き棒 2 <図ITF-4-a-3>
 布巻き棒 <図ITF-4-a-4>
 経糸間接保持具 : 錘り 1 <図ITF-4-a-5>
 錘り 2 <図ITF-4-a-6>
 布巻き制御棒 <図ITF-4-a-7>
 滑車 <図ITF-4-a-8, 9>
 開口具 : 番目綜統 (4 枚) <図ITF-4-a-10>
 開口補助具 : 滑車 <ITF-4-a-11>
 踏み木 <図ITF-4-a-12>
 緯入具 : 杼 <写真ITF-4-2-b>
 緯入補助具 : 飛杼装置
 <図ITF-4-a-13> <写真ITF-4-1>
 緯打具 : 箠 <図ITF-4-a-14>
 経糸整列具 : 綾棒 (2 本) <図ITF-4-a-15>



綾棒保持具 : 錘り <図ITF-4-a-16>
 経糸押さえ棒 : <図ITF-4-a-17>
 幅出し具 : 伸子 <図ITF-4-a-18>
 <写真ITF-4-2-a>
 その他 : 座板 <図ITF-3-a-19>

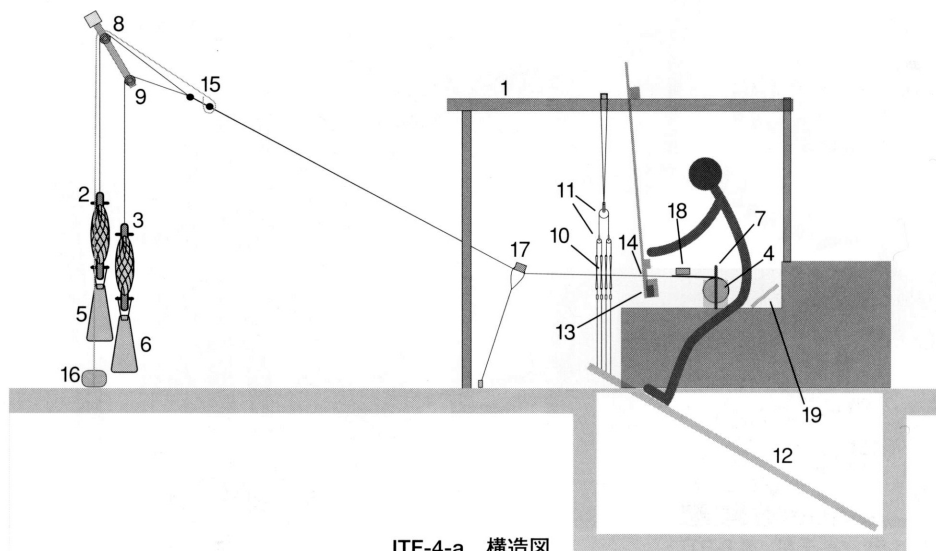
製織中の織物

織技法 : 無地綾織
 地組織 : 綾織組織
 素材 : 絹
 用途 : クルド人の女性用スカーフ
 経糸全長 : 2000cm以上
 織幅 : 147cm

織り手 : 男性 1 人

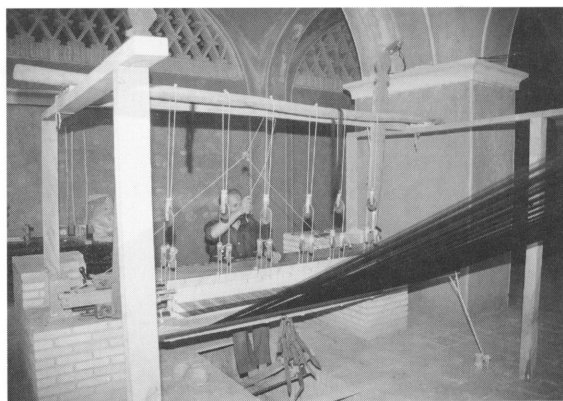
調査メモ

この高機は、カーシャーンの伝統工芸センター (Markaz-e Honarha-ye Sonnat, Kashan) の半地下の展示室に展示されていた織機の 1 つで、この高機では、黒無地の綾織りの実演がおこなわれていた。

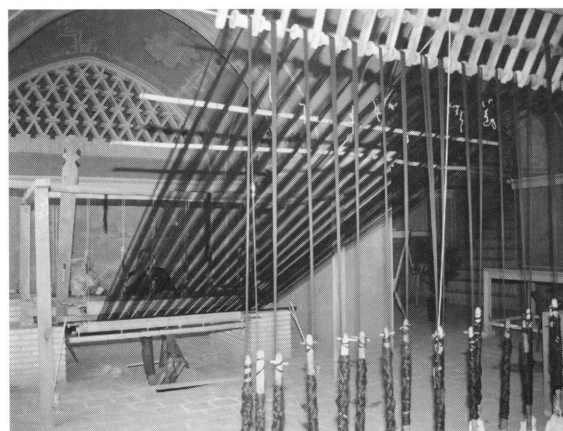


ITF-4-a 構造図

この高機は、地面に掘られた深さ100cmの穴に、番目綜統の牽引装置である踏み木が設置されている。経糸の保持方式は垂下式で、高機先端部の滑車を介して下にまわっている経糸は、18本の経巻き棒に分割して巻き取られており、経巻き棒の下端には、経糸に張力を付与するために、砂を袋詰めにした錘りが吊るされている。開口具は4枚の番目綜統で構成されており、踏み木を一度に2本ずつ踏んで2/2の綾を織っていた。また、この高機には、飛杼装置が備わっており、織り手は右手で飛杼装置の紐を引いて杼を左右に飛ばし、左手で箠打ちをしながらリズムカルに機織りをおこなっていた。織り手の姿勢は、ほぼ立った状態で、傾斜した座板には、座るといよりも、腰を当てがっているという具合であった。なお、この高機の機台は、左右が分離しており、そのあいだには綜統や飛杼装置を吊るす棒や、布巻き棒が渡されているのみである。



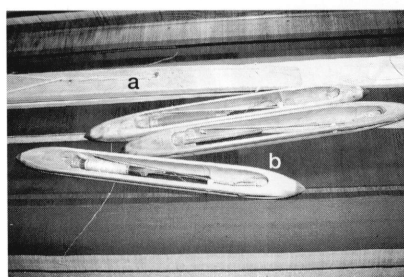
ITF-4-3 開口部分



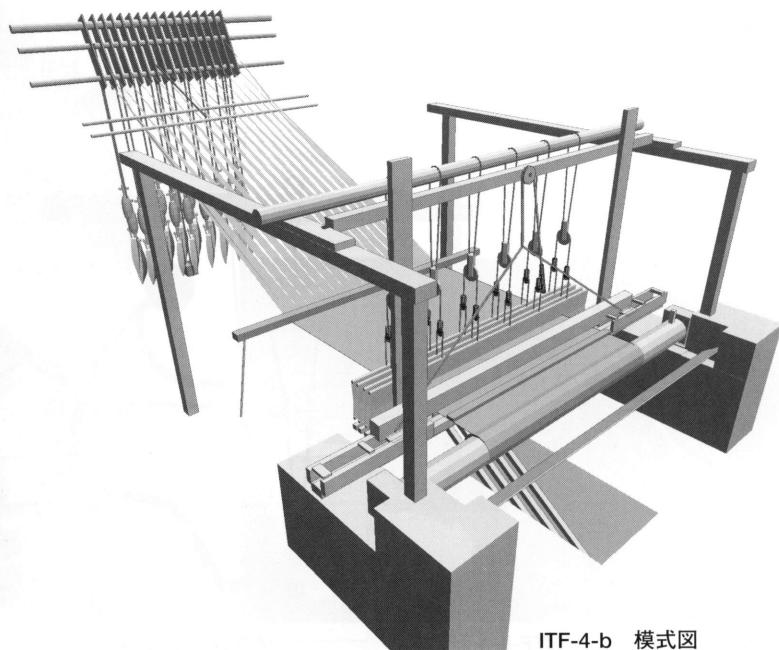
ITF-4-4 高機の前部



ITF-4-1 飛杼装置による機織り



ITF-4-2 伸子-a, 杼-b



ITF-4-b 模式図

高機【ITF-5】

調査年月日 : 1998年9月21日
調査地 : ナーイン (Nain) 市
民族名 : ペルシア (Persia)

型式 : 高機
材質 : 木
概寸 : 全長148cm, 全幅159cm, 機枠
全高98cm

経糸保持方式 : 固定式
整経方式 : 平整経式
開口具設置方式 : 綜統可動式

構成部品

機台 : <図ITF-5-a-1>
経糸保持具 : 経巻き棒<図ITF-5-a-2>
布巻き棒<図ITF-5-a-3>
経糸間接保持具 : 経巻き棒制御棒
<図ITF-5-a-4>
布巻き制御棒<図ITF-5-a-5>
布巻き制御棒連繫紐
<図ITF-5-a-6>
連繫紐固定杭<図ITF-5-a-7>

開口具 : 番目綜統 (2枚1組)
<図ITF-5-a-8>

開口補助具 : 天秤棒 (2本) <図ITF-5-a-9>
踏み木 (2本) <図ITF-5-a-10>

緯入具 : 杼<写真ITF-5-4>
緯打具 : 箠<図ITF-5-a-11>



幅出し具 : 伸子<図ITF-5-a-12>
その他 : 金ブラシ

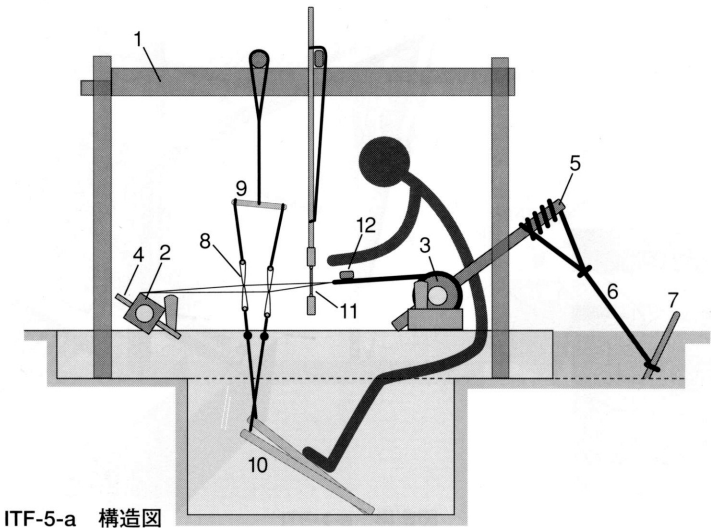
製織中の織物

織技法 : 無地平織
地組織 : 平織組織
素材 : 経糸 - 合成繊維
緯糸 - 木綿 (茶綿) ・羊毛
用途 : イスラームの聖職者や男性信者の
上衣 (アボー) 用布
経糸全長 : 500cm以上
織幅 : 72.5cm

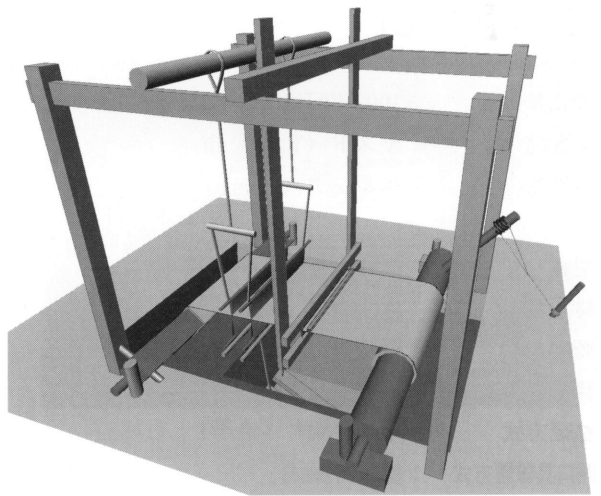
織り手 : 男性 1 人

調査メモ

この高機は、茶褐色の羅紗織りを専業とする機織り
工房で使用されていた10台の同型式の高機のうちの
1つである。工房は夏の暑さと冬の寒さを避けるた
めに地下に穴倉を掘ってつくられている。この高機



は【ITF-4】と同様に床を掘った深さ88cmの穴の底に、綜統の牽引装置である踏み木が設置されている。経糸の保持方式は固定式で、経糸は経巻き棒と布巻き棒によって直接保持されている。開口具は天秤仕掛けの2枚1組の番目綜統で構成されており、2本の踏み木を交互に踏み分けて開口と逆開口が繰り返される。織り手は、床から33cmの深さまで掘られた穴に座って機織りをおこなっており、機枠も織り手が座っている床面と同一平面に4本の柱を立てて組まれている。ただし、機枠の左右は分離しており、左右とも前後の2本の柱の上部に1本の木が組み込まただけで、これらのあいだには、綜統と箴を吊るした棒が渡されているのみである。



ITF-5-b 模式図



ITF-5-1 高機の全景



ITF-5-3 工房の全景



ITF-5-2 高機の側面



ITF-5-4 箴打ち